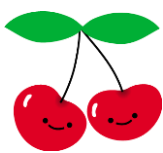


さくらんぼ



～やさしく・かしこく・たくましく～

NO. 6 平成30年10月19日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

運動会・教育実習～ご協力ありがとうございました～

運動会の前日は雨で、天気心配されましたが、当日は晴れて無事に言うことができました。保護者の方には準備や競技に参加いただいたり、子どもたちの気持ちを支え、温かく見守ってくださったりと様々な場面でご協力いただきました。子どもたちにとって楽しい運動会になったのではないかと思います。ありがとうございました。

教育実習では、学生達の学びのためにご協力くださり、大変感謝しております。実習生は大学で勉強をしていますが、実際に目の前の子どもたちと向き合うことで始めて本当の子どもたちの世界を知ることができます。始めは戸惑ったり悩んだりする学生の姿も多いです。しかし、毎日一生懸命、心と体を動かして遊んでいる子どもたちの姿に学生も心を動かされ、子どもたちがもっと楽しめるようにとねらいや願いをもって毎日の保育を工夫したり考えたりするようになっていきました。短い期間ですが、続けて目の前の子どもたちを見ていく中で「〇〇くんが今日は自分から友達に声をかけていたんですよ。」と子どもたちの成長をうれしく思う学生もいました。実習で子どもたちから学んだことがきっと将来の力になっていくと思います。ご協力ありがとうございました。

夏の暑さが残る9月から秋の虫の音や秋の実りを感じられる10月に入り、2学期に入って季節が移りゆく様子が肌で感じられます。運動会に引き続き、園ではお月見会や登山などたくさん行事がありました。今回はお月見会と登山での子どもたちの姿も紹介したいと思います。

一 お団子おいしいな。お月さまきれいだねー お月見会



園では行事を通して季節を感じたり、古来からの風習に触れたりすることを大切にしています。また、行事が突然子どもたちの生活に入ってくるのではなく、季節や自然を日々感じられる生活をしていく中でその日が楽しみに迎えられるようにと考えています。

花組では、バッタやトンボを見つけたり捕まえたり、イチジクやキウイ、ヒガンバナなどを見つけたりして秋を感じながら過ごしていました。帰りの集まりで「もうすぐお月さまが一番きれいな日があるんだって。まん丸で綺麗なお月さまを十五夜さんっていうんだ。」と話して歌を歌うと、Aちゃんは「この前お母さんとお月さま見た。きれいだった。」

と思い出していました。「昔の人は秋にたくさん美味しいものができるのはお月さまのおかげだと思って、“お月さま、ありがとうございます”って、お団子や果物や秋の草花を飾ったり、みんなでつくって食べたりしたんだって。」と話しながらお月見会があることや、風組さんや星組さんがお団子をつくってくれることなどを話し、お月見会の日を迎えました。

お月見会当日、お兄ちゃんがいるB君は「ぼくもつくりたかった。」と言っていたり、ままごとコーナーでCちゃんたちが「お団子つくろ。」と言いながら遊んでいたりと、3歳の子どもたちもつくってみたい気持ちで、お団子を楽しみに来ているのだなと感じました。そこで、風組さんがお団子を丸めているところをみんなで見に行くことにしました。窓越しにエプロンや三角巾をつけてお団子を丸めている姿が見えます。「コロコロ美味しくなあれって丸めてるね。」と話すと、花組の子どもたちは今にも部屋に入っていきそうなくらいに前のめりになって覗いていました。保育室に戻り、「B君やCちゃんがお団子つくってみたいって言ってたんだ。本当のお団子は難しいけど、お団子みたいな柔らかい粘土があるから、それでお団子づくりごっこするのはどう？」と尋ねると「つくってみたい。」「やりたい。」と子どもたち。そこで紙粘土でお団子をつくって遊ぶことにしました。子どもたちは「フワフワしてる。」「気持ちいい。」と何度ももみ込んだり、風組さんで見たようにきれいに丸めていたり、大きなお団子をつくったりと楽しんでいました。

風組さん、星組さんのお団子は丸められると釜戸で湯がかけられます。その様子も見にいきました。「茹でる前は白いね。茹でると、ツルツルつやつやしてるね。」と話すと興味をもって見たり、副園長先生が「匂ってみてもいいよ。」と言うと、みんなで顔を寄せて匂ってみたりする姿もありました。風組さんや星組さんが味付けや盛り付けをしている姿も横で見ながら楽しみに保育室に戻りました。お月見会の日には風組さんがお団子や梨をもってきて、始めて花組さんのお世話をしてくれます。花組へ持って行こうと並んでいる風組さんの顔は誇らしげだったり、少し緊張していたりして、真剣な様子が見られました。楽しみに待っていた花組さんたちは、風組さんに「ご挨拶どうぞそ」をしてもらい美味しくお団子を食べました。じっくり味わって食べていたり、おかわりをたくさんしたりして9個もお腹に入った子どもたちもいます。みんなで食べると、より一層おいしく感じられますよね。行事を通して食べることやつくることにも興味をもったり楽しんだりしてほしいと思っています。

遊戯室での集会では園のなりもの（イチジクやザクロなど）や秋の草花などのお供え物の紹介やお月さまの話をきいたり図書部のお母さんたちのパネルシアターを見たりして楽しい時間を過ごしました。

花組の紙粘土のお団子は家でお供え用にもって帰りましたが、次の日から残りの紙粘土でお団子やさんが始まりました。花組は運動会が終わった後にタケコプターをつけてドラえもんになりきったり、ドラえもんの口にどら焼きを入れたりして遊ぶ姿もありました。花組にとって園の行事は初めてのことばかりで、終わった後にその意味が分かったり、身

近になって親しめたりするようになります。行事を通してつながったことや楽しかったこと、子どもたちの生活は続いていることを大切に日々の遊びを楽しめるようにしていきたいと思っています。（井上）



「がんばれ！」が響く星組の山登り

登山遠足では、毎年星組は花組を中間地点まで手を引いて連れて行きます。登山遠足の一週間前には初めて散歩に行く花組と手をつないで、世界の森公園まで行きました。

登山遠足当日、出発前に星組の子どもたちへ「散歩のときよりももっと遠くまで花組さんを連れて行くから、車に気をつけてがんばろうね。花組さんが歩くのが遅くなったときはどうしようかね？」と聞いてみました。女兒が「休ませてあげる。」と言いました。年下の友達を思っている言葉でしたが「そうだね、でもあんまり休んでいるとなかなか着かないかもね。どうしたらいいかね？」と返しました。「引っ張ってあげる。」と男児が言うと、すぐに「引っ張ったらこけるよ。」と声上がり、「やさしく引っ張ってあげたらいい。」と意見が交わされます。「そうだね、花組さんががんばって歩けるように手をやさしく引いてあげたらいいね。『がんばれ』も言ってあげたらいいね。」と話して出発しました。

花組も星組と歩くのが2回目なので少し慣れてきたのか、手を繋いで少し早いペースでもついて歩けます。列の間が開くと「早歩きするよ。」と手を引いたり、山道に入ると沢の横を通るときに「川に落ちないようにね。」と声をかけたりする姿が見られました。後ろを歩いている風組よりも早いペースで星組は花組を連れて歩き、無事花組の休憩場所（花風の目的地まであと3分の1）に到着しました。星組の目指す頂上まではあと3分の2の距離があります。

ここから先はさらに星組だけでペースを上げて登ります。花組と別れてから緊張がほぐれたのか道中の虫や生き物にも目も向き「シジミチョウだ」「アキアカネだ」「魚が大きくなってるよ」などと寄り道しては友達と楽しく話しながら進む姿も見られます。

アスファルト道が終わり、いよいよ険しい山道に入ります。道幅は狭くなり、崖のように急な坂道をロープをつかんだり、岩にしがみついたりして登ります。男児が先に上がり、後ろから上がってくる女兒の集団を気かけます。「女の子たち大丈夫か！」とA君が声をかけだすと、他の男児達も「大丈夫かー！」と大声で呼びます。すると後方の女兒から「大丈夫だよー、男の子ががんばれー！」と大きな声が帰ってきました。すると男児達も「女の子ががんばれー！」と返します。その後も「がんばれー！」と友達と声を合わせたり、後方の友達の名前を呼んで応援したりしながら登る姿が見られ、山中に元気で温かい子どもたちの声が響き渡りました。

星組にとって、登山遠足は本当にかんばらなくてはならない場面を与えてくれました。子どもたちはお互いを思いやり、励まし合いながら友達との一体感を深め、心も体もまた大きく成長したと思います。（高田）